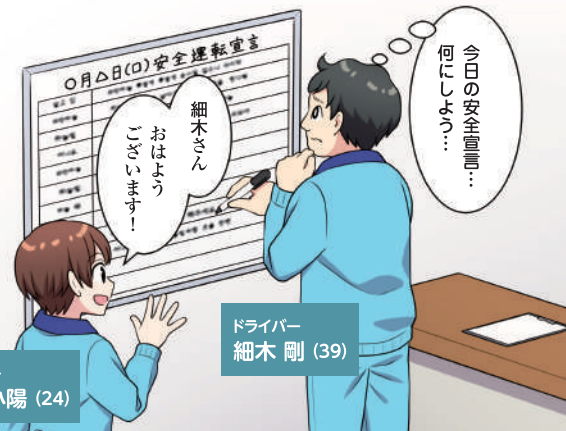




…今日も快晴!… トラックドライバー日記

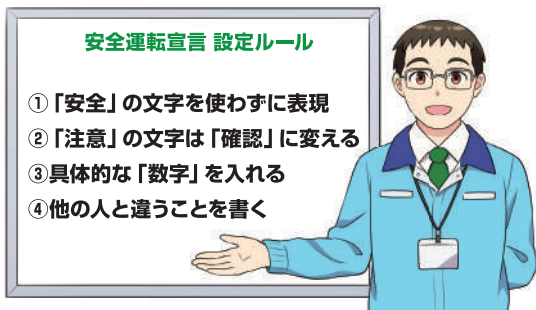
「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第25話 安全運転宣言は具体的な言葉で



個々に考える安全が、全員の安全に

安全運転宣言を設定する際のルールを設け、それにとつた各自の目標を発表し、全員で共有することが安全に近づきます。



マンガ制作:ad-manga.com

安全運転宣言を決める際に上記のようなルールを設けると効果的です。

出発前に「本日も事故を起こさないように」と言われると、すべて「ドライバーが」だと答えるでしょう。しかしながら、道の上には交通事故の原因になる危険に加え、事故後には発生状況により過失割合が想定以上に増すなど理不尽なことも多いはずです。天候や他車ドライバーを含む周囲の行動など、外的要因を受けやすい運転時は、何かしらの努力をしなければ、無事故を継続することは困難といえます。今回紹介したような、自分で決めた行動を守ることによって、自分を守ることに繋がります。

自分を守るために、自分で決めたことを守る

事業所内で一人ひとりの「今日の安全運転宣言」を公開することもお勧めです。その際には「他の人と違うことを書く」ことをルールにしてみましょう。必然的に記入前に他の人の記載内容を確認するようになり、出発前の記入の参考ではなく、出発後の運転の参考になります。公開方法は、使用していないホワイトボードがあれば有効活用するもよし、1日に1枚の紙を使用するのもよいでしょう。運転とはひとり運転席で行うものですが、実は行き交う対向運転者や信号待ちをしている歩行者など、多くの人の目に触れている行動なのです。安全運転宣言も、誰かに見られることを前提に考えることが効果的です。出発前に「今日は何に取り組むか」を考えた時間は、無事故を継続する時間にも比例するでしょう。

安全を考える時間が無事故継続の時間に比例

ルールや会話における「禁止」を禁止にしよう

「事故をしない」は目標であり、「確認をする」が手段です。「○○をしない」や「○○は禁止」という表現はやめて、手段を伝える「○○をする」に置き換えると、安全な行動につながりやすくなります。

例えば

「荷台から飛び降りない」
ではなく、
「後ろ向きに降りる」



「しない」など禁止言葉を禁止! 伝わるルールに修正しましょう!

安全運転宣言には抽象的な言葉は使わない

点呼時に「本日も無事故を実現するために何をしますか?」と聞かれれば、どのように答えますか? 「安全運転をする」とは言いませんよ。運転において安全とは目標(ゴール)であり、目標をかなえるためには手段である行動(ルール)を決めて取り組むことが不可欠です。行動(ルール)の決め方において、「車輪止めの装着を心掛けます」や「確認をしようと思えます」では「できればやってみよう」のように聞こえ少々歯切れが悪く、決意とはいえないように感じます。また「ちゃん」と「やん」と「や」を意識する「や」列をつける「も」などちらかといえは抽象的な言葉です。どれくらいやるのかについては、言葉に数字を入れると具体的に なります。例えば、「早めに休憩する」に数字を入れて「いつもより1つ手前のパーキングに入る」や「あくびが3回出たら休憩する」などと変えてみましょう。

安全運転宣言は具体的に。
使い勝手のよい言葉は伝わりにくい。

「ちゃん」と「やん」と「や」を意識する「や」など
抽象的で使い勝手のよい言葉ではなく、
数字を入れるなど具体的な言葉で安全行動を決めましょう。



高柳 勝二 (たかなぎ かつじ)

株式会社 プロデュープ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデュープ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい、眠くならない、分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。